

銀賞

自分の手を汚す大切さ

トヨタ自動車株式会社 本社工場

堀田 成二

私はトヨタ自動車本社工場で、ハイブリッドシステムのギヤなどを組み付けるアルミニウム製のケース加工ラインのオペレーターとして働いています。私の職場では、高品質な製品を安定して提供するために、設備の信頼性が非常に重要です。しかし、これまでは保全部署に頼りっぱなしで、トラブルが発生するとすぐに助けを求めるだけで、故障の原因や再発防止策について考えることがありませんでした。このような自分を見ていた上司の福田 TL は、自主保全の重要性を教えてくれ、共に自主保全士の資格を取得しようと提案してくれました。

最初は自主保全士の資格が難しそうに思え、なぜ保全について学ばなければならないのか理解できませんでした。しかし、勉強を進める中で保全の知識や用語を学ぶうちに、考え方を变える必要があると感じるようになりました。自主保全の勉強を進める中で、聞き慣れない保全用語や難しい問題が出てきた際、私は保全部署の方々に教えてもらうため、製造支援課に足を運びました。そこで自主保全について質問したところ、快く教えていただきました。その中で言われた一言が、私の考えを一変させました。「現場の若手が保全に興味を持ってくれると嬉しい」という言葉です。この言葉を聞いて、自分が勉強していることが周りのためになっていると気づき、勉強に熱が入りました。

その結果、私と福田 TL は共に自主保全士資格 1 級に合格し、保全に対する意識が芽生えました。自職場の工作機械である SP 機の主軸を動かす巻き取りカバーが破損し、ラインが頻繁に停止する問題がありました。調査を進めると、巻き取りカバーの破損原因が切粉のかみ込みやスプリングの線径不足、過巻にあることが分かりました。メーカーと何度もやり取りをし、対策を進めました。

改善後は、切粉混入を防ぐためにブラシの線径をΦ2.0からΦ2.5に変更し、毛材を波線にすることで切粉混入を 70%削減しました。また、スプリングの線径もΦ2.0からΦ2.3に改良し、過巻対策として、本社工場の7~8巻きから他工場と同じ3~4巻きに変更した結果、破損がなくなりました。この経験を通じて、自主保全への熱意はさらに高まり、自職場の自主保全リーダーとしての役

割を果たすことになりました。

自主保全の基本は4S（整理・整頓・清掃・清潔）だと考え、職場の設備マップを作成しました。昼休憩後の10分間を4S活動に充て、地道な努力を重ねてきました。その結果、設備の微欠陥に気づく能力が向上しましたが、修理や修復の技術が不足していたため、製造支援課の方々に弟子入りし、メンテナンスの技術を教わりました。学んだ技能を後輩たちに伝え、一緒に手を汚すことで、私自身と後輩たちの設備知識が向上しました。後輩たちが自主保全に興味を持ち、積極的に取り組む姿を見て、私も大きな喜びを感じました。

全員参加で微欠陥を見つけた際には「エフ」を付けて修繕できた時に「エフ取り」を行う活動を実施しました。エフを付けた場所をマップに記入することで、設備の弱点が可視化され、対策の優先度も明確になりました。手を汚すことで保全知識が向上し、後輩たちへの技能伝達も実現しました。これからは若手の人材育成を進め、自主保全の大切さを伝え、予防保全を推進していきたいと思っています。手を汚すことの重要性を実感し、現場の一員としての責任を果たすことができる喜びを感じています。

このように、自分の手を汚すことで得られる成長や仲間との絆は、私にとってかけがえのない経験です。自分自身の成長はもちろん、職場全体の士気を高めることにも繋がると信じています。手を汚しながら学び、共に成長していく姿勢を大切にし、これからも積極的にTPM活動に取り組んでいきます。私たちの努力が、より良い職場づくりの最初の一步となるように、これからも活動を進めてまいります。ご安全に！